第３章　全体構想：将来都市構造

第３章では、将来都市像・まちづくりの目標の実現に向けて、目指していく都市構造を示します。

1 将来都市構造の基本的な考え方

本市が目指す将来都市構造は、複層的な拠点と有機的なネットワークをつなぎ合わせた「多核連携型コンパクト・プラス・ネットワーク」の構築を基本的な考え方とします。

今後も各地域の利便性を維持するため、日常生活を支える地域の拠点を配置する「多核型の都市構造」を形成します。

また、地域の拠点に不足する機能を、拠点間で連携・補完するとともに、誰もが鉄道による広域交通アクセスの利便性を享受しやすくするため、各拠点間及び拠点と鉄道駅をつなぐ交通のネットワークを形成します。市の中心となる都市拠点を起点とした放射状のネットワークと、地域の拠点を循環するネットワークをつなぎ合わせ、有機的なネットワークを形成します。

《将来都市構造のイメージ》

«将来都市構造は下記３要素で構成します»

拠点

市民の暮らしや来訪者の活動を支える多様な機能が集積した場所

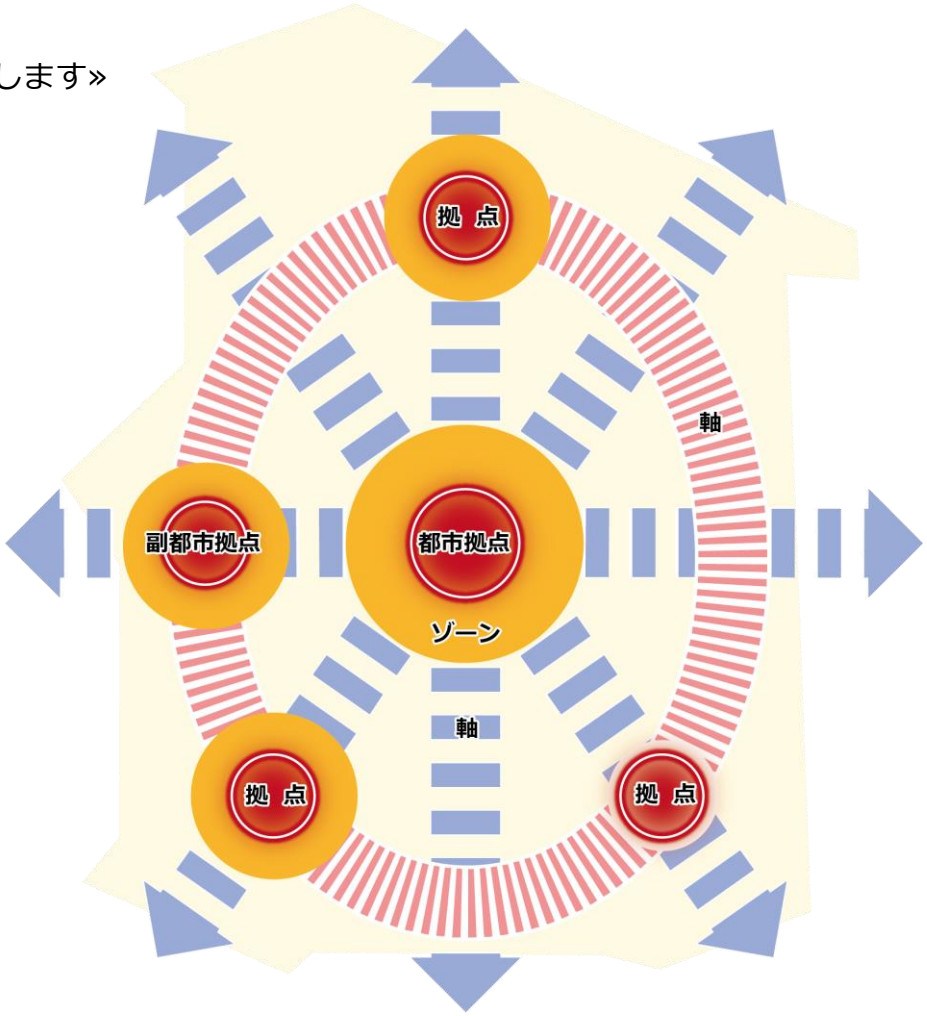
広域交通の結節点や産業・観光等、地域の特性を生かした場所

ゾーン

都市的利用や自然・営農保全など、土地利用のあり方を示す大枠での範囲

軸

広域都市間や市内の拠点間を結び、人々の交流や円滑な移動を支える主要な道路や公共交通路線



2 将来都市構造

前ページの「将来都市構造の基本的な考え方」を踏まえ、本市の将来都市構造を以下のとおり設定します。拠点・ゾーン・軸の詳細な内容は次ページ以降に示します。



【 拠　点 】

- 都市拠点
- 副都市拠点
- 地域拠点
- 生活拠点
- エリア・コミュニティ拠点
- 暮らしを支えるエリア・コミュニティ拠点
- スポーツ･文化･健康拠点
- 新スポーツ・文化・健康拠点
- 観光交流拠点
- 産業拠点
- 東部重点産業拠点
- 防災地区拠点
- 広域避難場所

【 ゾーン 】

- 利便性の高い市街地ゾーン
- 市街地ゾーン
- 農地･集落ゾーン
- 公園緑地ゾーン
- 産業立地ゾーン
- 産業誘導ゾーン
- 沿道型土地利用ゾーン

【　軸　】

- アクセス強化軸（広域）
- アクセス強化軸（地域）
- 道路軸（広域・拠点間連携）※破線は計画・構想
- 道路軸（地域連携）※破線は計画・構想
- 防災の軸
- 水辺の軸
- スポーツ･文化･健康の連携軸

【 その他 】

- 救急指定病院
- 臨時ヘリポート
- JR 高崎線
- JR 上越・北陸新幹線
- 秩父鉄道

（1）「コンパクト・プラス・ネットワーク」化されたまちを実現する都市構造　【目標①を実現する都市構造】

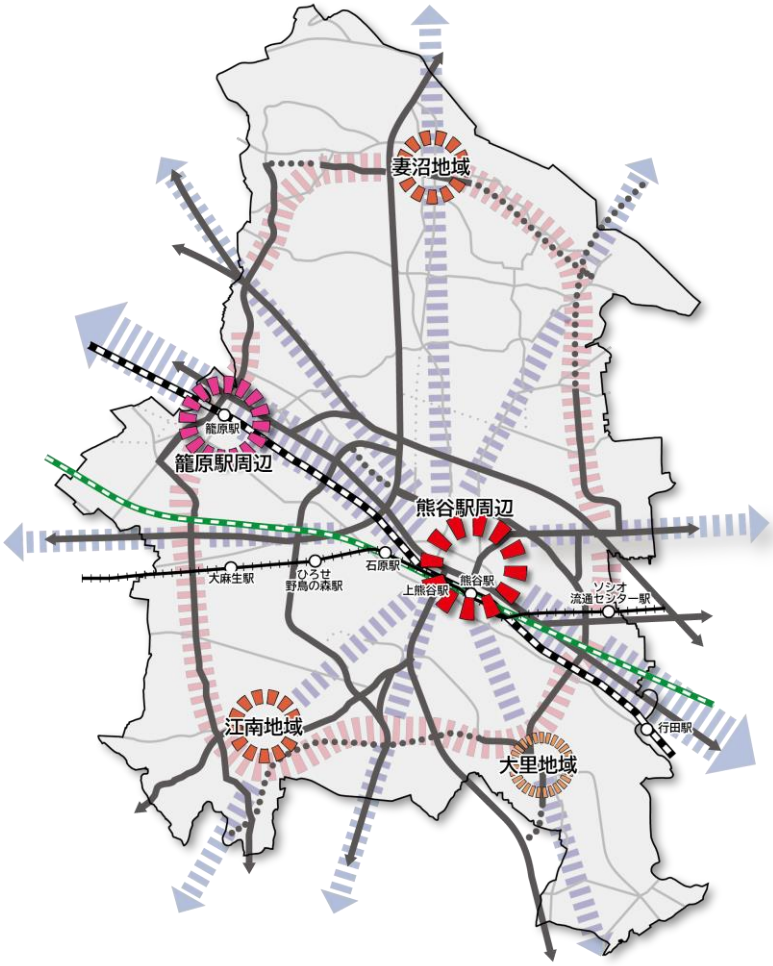
◇人口減少・少子高齢化等の状況の中でも、各地域の利便性を維持するため、日常生活を支える地域の拠点を配置し「多核型の都市構造」を形成します。

◇県北最大の交通結節点である熊谷駅周辺に都市拠点を形成します。アクセス性を生かし各拠点も含めた活発な都市活動や交流を生み出していきます。

◇各拠点においては、これまでの各種施設の集積、都市基盤の整備状況、公共交通によるアクセスのしやすさなどの地域特性に応じて、担う役割を分担します。

◇公共交通ネットワークの構築により拠点間をつなぎ、不足する機能を補完しあう「連携型の都市構造」を形成します。

«配置イメージ図»



①拠点

都市拠点（熊谷駅周辺）

◇複数の鉄道及びバス路線が乗り入れ、広域的な移動の利便性が高い公共交通結節点です。

◇多様な都市機能が集積しており、広域的で活発な都市活動や交流が行われる拠点です。

◇先進技術を活用し、ポストコロナ社会や暑さ等に柔軟に対応したスマートな市街地を形成する拠点です。

副都市拠点（籠原駅周辺）

◇ＪＲ高崎線の始発駅となっており、公共交通結節点として利便性の高い拠点です。

◇先進技術を活用し、ポストコロナ社会や暑さ等に柔軟に対応したスマートな市街地を形成する拠点です。

◇日常生活に必要な商業・金融・医療・福祉・行政等の都市機能が集積した拠点です。

地域拠点（妻沼・江南地域）

◇日常生活に必要な商業・金融・医療・福祉・行政等の都市機能が集積した拠点です。

生活拠点（大里地域）

◇日常生活に身近な拠点として、行政サービス等の都市機能が集積する拠点です。

②軸

アクセス強化軸（広域）

◇広域圏の移動を可能とし、ヒト・モノの連携を活発にする軸です。
◇誰もが鉄道による広域交通アクセスを享受しやすくするため、基幹的公共交通ネットワークを形成する軸です。

≪設定箇所≫
ヒト・モノの連携を図る隣接市町への放射方向

アクセス強化軸（地域）

◇市内の地域間の移動を可能とし、ヒト・モノの連携を活発にする軸です。
◇基幹的公共交通ネットワークを補完し、市内の地域間の移動や拠点間の機能連携・補完を円滑にする日常生活に必要な軸です。

≪設定箇所≫
市内地域間を結ぶ循環方向

道路軸（広域・拠点間連携）※破線は計画・構想

◇都市間を結び、住みやすさや産業活動等を支える道路です。
◇都市拠点に流入する通過交通を少なくし、住みやすさを支える環状道路です。

≪設定箇所≫
主要な国道・県道・市道

道路軸（地域連携）※破線は計画・構想

◇放射状にのびる広域幹線や環状線を結ぶ道路です。
◇地域内の面的道路ネットワークの骨格となり、住みやすさを支える道路です。

≪設定箇所≫
国道・県道・市道

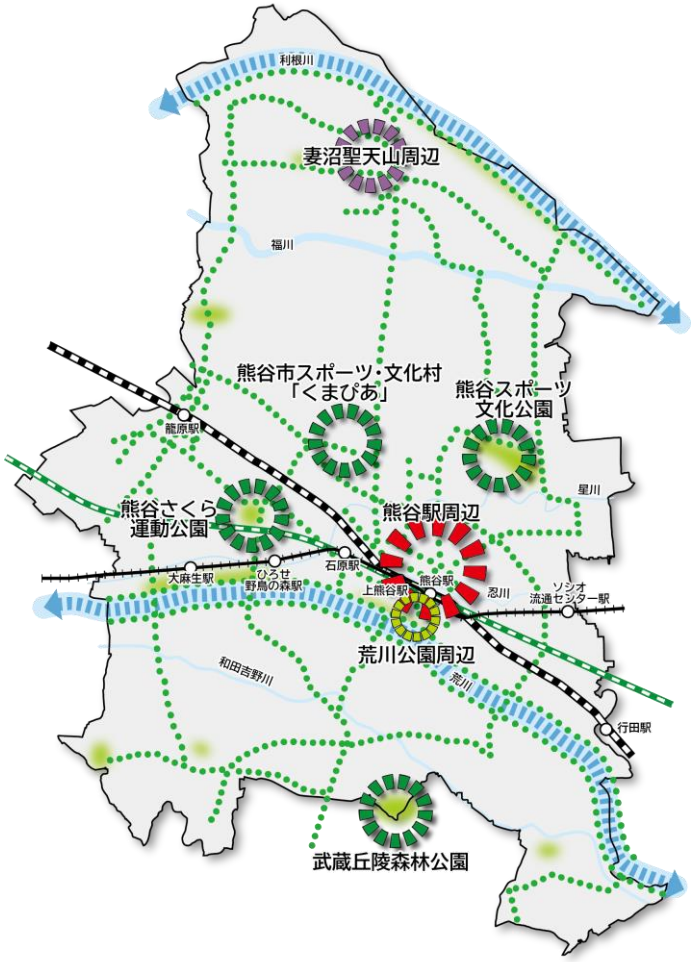
（２）自然の中でスポーツや文化に親しみ愛着の持てるまちを実現する都市構造　【目標②を実現する都市構造】

◇各地域に点在するスポーツ・観光・文化の拠点は、市内外から多くのヒト・モノが集まります。そこで生み出される活気・にぎわいが市全域に波及する都市構造を形成するため、拠点間をつなぐ交通のネットワークを形成します。

◇スポーツ・観光・文化を通してまちへの愛着を育むと同時に、交流人口の拡大を図るため、地域資源が持つ特色を生かした拠点を形成します。

◇利根川・荒川の二大河川や、市内を周遊できる自転車道は、スポーツ・観光・文化を楽しみ、愛着を感じられる空間として、都市構造に位置付けます。

«配置イメージ図»



①拠点

都市拠点（熊谷駅周辺）

◇熊谷スポーツ文化公園との連携強化により、一層の魅力向上を図る拠点です。
◇魅力的な店舗や歴史の積み重ねでできた街並み・文化などを生かしながら、新しい楽しみ方の創出を図る空間です。
◇熊谷駅南口は、新スポーツ・文化・健康拠点への人の流れを生かし、街のにぎわいを形成することで、活性化を図ります。

スポーツ・文化・健康拠点

◇市民のスポーツ・文化活動の支援や、スポーツツーリズムの推進により、交流人口の拡大を図る拠点です。
◇日常生活でスポーツ等を楽しみ、地域に愛着を感じる空間です。

«設定箇所»

熊谷スポーツ文化公園、熊谷さくら運動公園、熊谷市スポーツ・文化村「くまぴあ」
武蔵丘陵森林公園

新スポーツ・文化・健康拠点（荒川公園周辺）

◇都市拠点に近接する強みを生かし、市民のスポーツ・文化活動の支援や、交流人口の拡大を図る拠点です。
◇「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」を通じ、地域の誇りを感じる空間です。

観光交流拠点（妻沼聖天山周辺）

◇国宝や歴史的な建造物等の地域資源を生かした景観まちづくりを推進するとともに公共交通アクセスを向上させ、交流人口の拡大を図る拠点です。

②ゾーン

公園緑地ゾーン

◇市民生活に潤いとやすらぎを提供するために、積極的に活用を図るゾーンです。
«設定箇所»
妻沼運動公園、別府沼公園、利根川総合運動公園、荒川大麻生公園、江南総合公園
熊谷スポーツ文化公園、熊谷さくら運動公園、熊谷荒川緑地、熊谷桜堤、桜リバーサイドパーク、大沼公園、武蔵丘陵森林公園

③軸

水辺の軸

◇自然に親しみながら潤いや解放感を感じ、スポーツ・観光・文化を楽しむことができる空間です。
◇日常生活でスポーツ等を楽しみ、地域に愛着を感じる空間です。
«設定箇所»
利根川、荒川

スポーツ・文化・健康の連携軸(自転車道)

◇水辺やスポーツ・文化・健康拠点及び観光交流拠点間をつなぎ、自転車での周遊を楽しむ軸です。

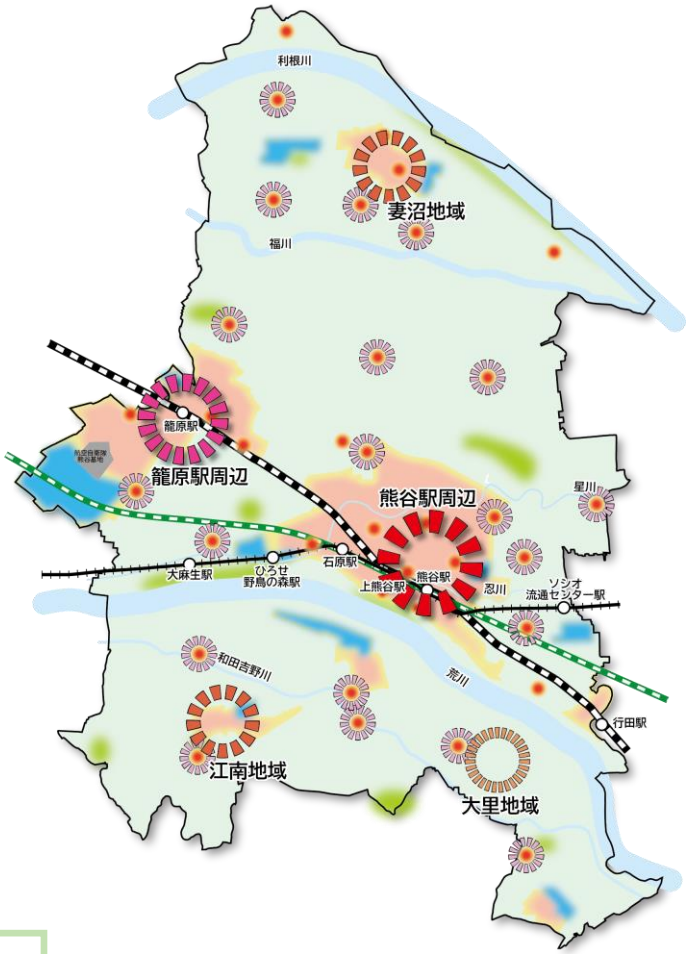
（３）快適で魅力ある緑あふれるまちを実現する都市構造　【目標③を実現する都市構造】

◇一定の人口密度を維持するゾーンを位置付け、今後の社会情勢の変化や人口減少・少子高齢化等に対応できる持続可能な都市構造を形成します。

◇都市的利便性・自然との近接性等の地域特性に応じたゾーンを位置付け、ライフスタイルの違いにも対応可能な都市構造を形成します。

◇市街化調整区域に広がる農地等の自然環境の保全や地域コミュニティ、集落機能を維持していきます。

«配置イメージ図»



① 拠点

都市拠点（熊谷駅周辺）

※P28 参照

地域拠点（妻沼・江南地域）

※P28 参照

エリア・コミュニティ拠点

◇エリア・コミュニティ拠点は、各地域（エリア）・校区における市民活動や暮らしを支える機能を備えた拠点です。

«設定箇所»

（仮称）生涯活動センター
（仮称）地域会館

副都市拠点（籠原駅周辺）

※P28 参照

生活拠点（大里地域）

※P28 参照

暮らしを支えるエリア・コミュニティ拠点

◇暮らしを支えるエリア・コミュニティ拠点は、エリア・コミュニティ拠点のうち、水害リスクが比較的低い拠点です。

②ゾーン

利便性の高い市街地ゾーン

◇都市的利便性や公共交通の利便性の高さを重視する生活をおくることができるゾーンです。

«設定箇所»

市街化区域のうち都市機能を高める区域及び居住を誘導する区域

市街地ゾーン

◇暮らしやすさと地域コミュニティ維持の両立を図るゾーンです。

«設定箇所»

市街化区域のうち利便性の高い市街地ゾーン以外の住宅区域

産業立地ゾーン

◇既に産業が立地しており、今後も操業環境の保全を図るゾーンです。

«設定箇所»

工業専用地域及び工業地域又は準工業地域のうち工業利用されている区域

農業・集落ゾーン

◇まとまりある優良農地や山林等の自然環境の保全を中心としたゾーンです。

◇自然を身近に感じ空間的なゆとりを重視する生活をおくることができるゾーンです。

«設定箇所»

市街化調整区域（農地、自然林、まとまりある集落）

公園緑地ゾーン

※P31 参照

«設定箇所»

妻沼運動公園、別府沼公園、利根川総合運動公園、荒川大麻生公園、江南総合公園
熊谷スポーツ文化公園、熊谷さくら運動公園、熊谷荒川緑地、熊谷桜堤、桜リバーサイドパーク、大沼公園、武蔵丘陵森林公園

（４）安心して暮らせる安全なまち を実現する都市構造　【目標④を実現する都市構造】

◇災害ハザード区域への居住を抑制し、災害リスクの低いエリアに居住を誘導する「防災の観点からのコンパクトな都市構造」を形成します。

◇各地域の防災の拠点間を結ぶ緊急輸送道路ネットワークの形成や、安全な避難に向けた地域内の避難経路や避難所の確保など避難・救助・物資供給等の活動を可能とする都市構造を形成します。

◇被災による影響を低減するため、道路・上下水道等のインフラ整備や耐震化などを図り、災害に強い都市構造を形成します。

«配置イメージ図»



①拠点

● 防災地区拠点

◇災害時の活動を効果的に行うための拠点です。

«設定箇所»

熊谷市役所、妻沼庁舎、江南庁舎、大里庁舎、熊谷東中学校、熊谷西高等学校
熊谷スポーツ文化公園、吉岡中学校、熊谷市スポーツ・文化村「くまぴあ」

広域避難場所

◇地震による大きな火災が発生した場合などの大規模な避難に適した公園、緑地等です。今後、公共施設の再編によって生じる大規模な公有地では、広域避難場所の拡充の可能性を検討します。

※洪水時には利用できない場所があるため、水害時の避難については防災ハザードマップによることとします

≪設定箇所≫

熊谷スポーツ文化公園、熊谷さくら運動公園、熊谷荒川緑地、別府沼公園
妻沼運動公園、江南総合公園

臨時ヘリポート

◇災害により交通が途絶した場合や緊急的な輸送を必要とする場合の要所となる地点です。

≪設定箇所≫

熊谷スポーツ文化公園、妻沼運動公園、福川河川防災ステーション
和田吉野川河川防災ステーション、大里ヘリポート、江南総合公園

救急指定病院

◇災害が発生した場合に、救急活動の要所となる病院です。

≪設定箇所≫

熊谷総合病院、熊谷外科病院、埼玉慈恵病院、関東脳神経外科病院、熊谷生協病院

②軸

防災の軸

◇大規模な災害が発生した場合に、救命活動や各地域の防災の拠点間の物資輸送を行うための道路ネットワークです。

≪設定箇所≫

緊急輸送道路（構想を含む）

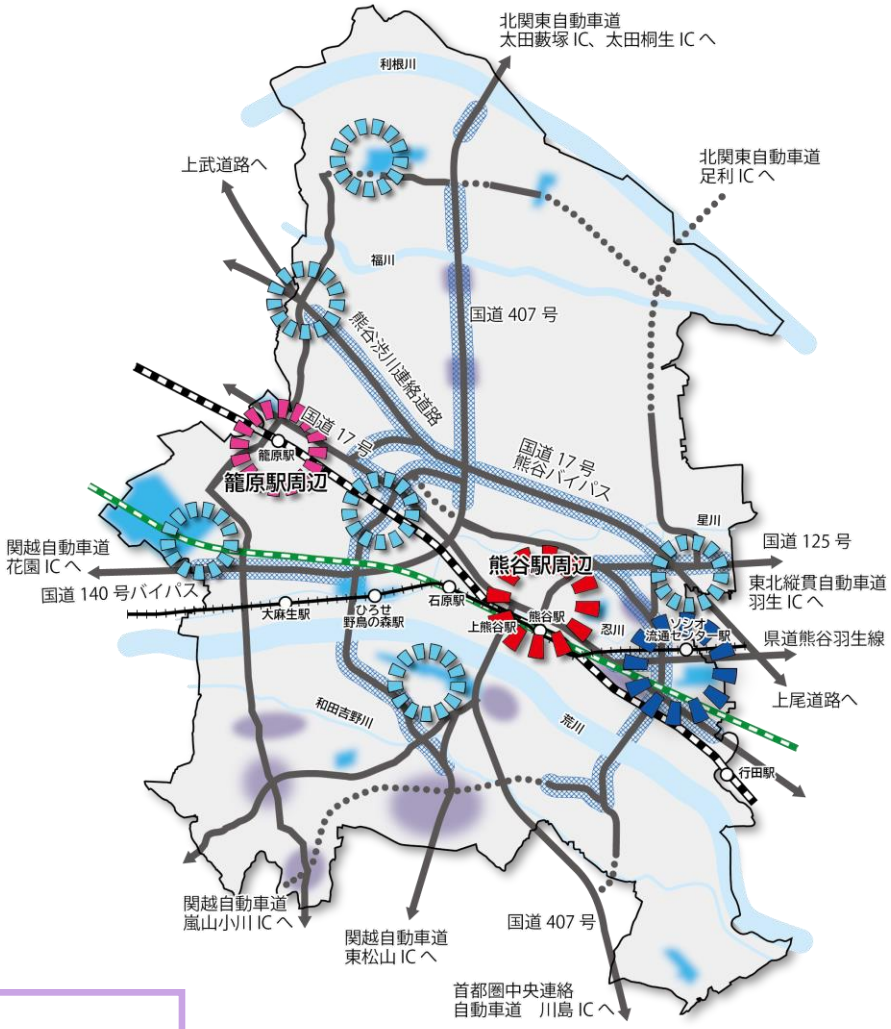
（５）ヒト・モノが集まり活力ある産業が育つまちを実現する都市構造　【目標⑤を実現する都市構造】

◇産業振興の拠点を広域交通ネットワーク沿いに位置付け、活力が維持される都市構造を形成します。

◇計画的な産業集積を図っていく産業拠点（東部重点産業拠点を含む）と、個別の開発行為を中心に産業誘致等を行っていくゾーンを各地域に配置し、均衡ある活力維持を目指します。

◇広域的な交通利便性の高い熊谷駅周辺を業務の拠点としても位置付け、新しい産業創出や、ポストコロナ社会に順応したまちづくりを推進し、働きやすい都市構造を形成します。

«配置イメージ図»



①拠点

都市拠点（熊谷駅周辺）

副都市拠点（籠原駅周辺）

◇広域交通アクセスに優れた特性を生かし、新しい産業創出や、ポストコロナ社会に順応した働く場を形成する拠点です。

産業拠点

◇各種開発事業などによる面的な整備を行い、計画的に産業集積を目指す拠点です。

東部重点産業拠点

◇優れた交通アクセス性を生かした、新たな産業用地の創出や既存施設の機能更新を推進する拠点です。

◇近接する（仮称）道の駅「くまがや」との相互連携を図り、一体的に東部地域の活力を高める拠点を形成します。

産業立地ゾーン

※P33 参照

«設定箇所»

工業専用地域及び工業地域又は準工業地域のうち工業利用されている区域

産業誘導ゾーン

◇個別の開発行為を中心に、比較的短い期間で産業の誘致や事業所跡地等の土地利用転換による有効活用を図るゾーンです。

沿道型土地利用ゾーン

◇個別開発による流通業務施設等の誘致や事業所跡地等の土地利用転換による有効活用を図るゾーンです。

«設定箇所»

主要な国道・県道・市道の沿道

③軸

道路軸（広域・拠点間連携）※破線は計画・構想

◇都市間を結び、住みやすさや産業活動等を支える道路です。

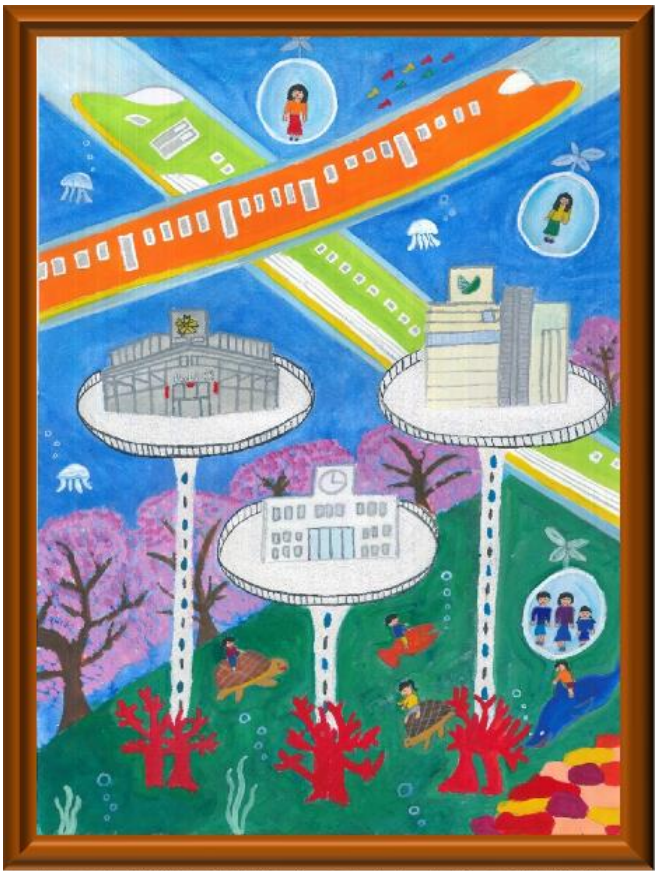
◇都市拠点に流入する通過交通を少なくし、住みやすさを支える環状道路です。

«設定箇所»

主要な国道・県道・市道



熊谷東小学校２年「うちゅうへいけるくまがや」



石原小学校５年「住んでみたいな海の街熊谷」